

名古屋大学新入生サポートセンターにおける PC 講座について

片出旺太*1・大岩徹郎*2・森田弘美*3・山下春香*4・溝口貴史*5

Email: renu-staff@coop.nagoya-u.ac.jp

- *1: 名古屋大学工学部化学・生物工学科
- *2: 名古屋大学農学部応用生命工学科
- *3: 名古屋大学工学部電気電子・情報工学科
- *4: 名古屋大学医学部保健学科
- *5: 名古屋大学生協新入生サポートセンター センター長

◎Key Words 学生スタッフ, 新入生, パソコン講座

1. はじめに

私たちは、名古屋大学生協新入生サポートセンターの学生アドバイザーである“ReNU(リニュー)”という団体に所属している。ReNUの活動のひとつとして生協が販売するパソコンを購入した新入生を対象に、毎年3-4月にPC講座を開講しており、約2,200人いる新入生の3人に1人が受講している。このパソコン講座で今年度改革したことの報告をするとともに、講座運営をしていくことで浮かび上がってきた新入生の情報リテラシー格差とそれを指導するスタッフの教育の問題について考察を行う。

2. ReNUについて

ReNUの活動の主な目的は、学生アドバイザーとして新入生の入学準備のサポートをすることである。主な活動内容は、生協加入の手続きや教科書教材の購入方法の案内、一人暮らしをはじめとする新入生に対する住まいの斡旋、そしてPC講座の運営である。ReNUのスタッフは現役の名古屋大学生約50人から構成されており、実際の大学生活に基づいたアドバイス・サポートを実践している。

3. 講座の目的

PC講座の目的は、新入生が大学生活で困らないようにパソコンを利用できるようにすることであり、そのコンセプトは、「BASE (Beginner, Advance, Soon, Experience)」である。大学では入学後すぐにレポートやプレゼンテーションでの発表の課題が課されるが、パソコンに詳しくない新入生はもちろん Office がある程度使える新入生でも、大学の課題については初心者(Beginner)である。しかし、名古屋大学ではパソコンでレポートを書く方法やプレゼンテーションの作り方を学べるような情報リテラシーの講義がないので、初めての課題の前までにパソコンを使って大学のレポートやスライドを作れる状態になっていなければならない。また、講座では Office のスキルだけでなく、研究や就活などで役立つ発展的な利用方法(Advance)も扱っている。新入生が大学入学後にすぐにパソコンが利用できるように、3-4月という講義開始前の時期(Soon)に講座を設定している。さらに、PC講座は、講座の制作・資料の作成・講座の運営すべてを ReNU のスタッフで行っている。現役の名古屋大学生が講座を作り、運営しているので、名古屋大学生としての実際の経験(Experience)に基づき、必要な知識・スキルを厳選して伝えられる。

4. 講座概要

PC講座は、前述のコンセプトの下に4つの講座から成っている。その内、セットアップ講座と活用講座から成るものを基礎講座とし、プレゼンスキルアップ講座と理系レポート講座をアドバンス講座として設けている。基礎講座では、パソコンのセットアップ及び大学生生活特有のPCスキルを扱う。アドバンス講座では、基礎講座で学んだスキルを活かした実践的内容を扱う。アドバンス講座は基礎講座受講者のみ受講できる。講座受講の流れを図1に示す。

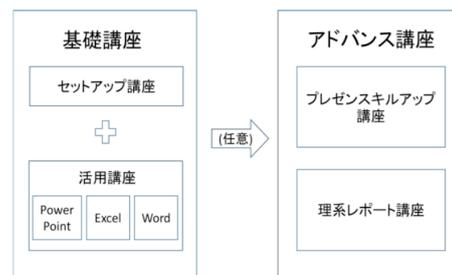


図1 講座受講の流れ

PC講座の会場は大学の講義室を利用している。基礎講座では、1教室あたりの受講生の人数を、最大で50人程度としている。1教室当たり、講師1人とTeaching Assistant(以下「TA」と称す)3~5人のスタッフで運営している。新入生に実際の操作を通してパソコンの使い方を学んでもらうために、講座の大半は講師と同じ操作を受講生が行う操作追従の形式を取っている。講師が使用するパソコンの画面を講義室のスクリーンに映し、受講生がそれを見ながら講師の説明で操作を行う。操作追従の形式だけでは説明が不十分な場面では、スライドを使って説明する。TAは講師の説明についていけなくなった受講生に対して個別対応でサポートをする。また、講座時間調整など講座運営の役割も担っている。

5. 各講座概要

5.1 セットアップ講座

セットアップ講座の目的は、購入したパソコンを受講生が使用可能な状態にすることである。受講生は13日程から都合の良い日程を選んで受講する。講座の時間は2時間30分(休憩含む)である。まず、パソコンの初期設定を行い、OSであるWindows 8.1の機能を紹介し、操作追従の形式で実際に操作を教える。次に、名古屋大学の学内無線LANを利用して、Microsoft Office

の設定をする。最後に、講師がスライドを利用して学内でのパソコンの利用方法等の説明をする。時間の都合上講座内で扱えないウイルスバスター設定の案内もこの時間に行っている。これらの内容を詳細に記載した資料を用意しているため、受講生が自宅に帰ってから各自で確認できるようにしている。

5.2 活用講座

活用講座は、PowerPoint, Excel, Word の順番で行う。各講座の時間は2時間(休憩含む)であり、1日ですべての講座を行う。受講生は7日程の中から都合の良い日程を選んで受講する。あらかじめ文章や数値の入力されたデータを配布し講座を進める。これは講座進行の効率性を上げるためである。また、活用講座ではReNUが独自に制作したテキストを配布しており、講座後も復習できるようにしている。

● PowerPoint 講座

PowerPoint 講座の目的は、受講生が PowerPoint を使って見やすいスライドを作れるようになることである。本講座では受講生が自己紹介スライドの作成を通して、PowerPoint の操作を習得していく。講座の最後には、受講生が自分の作ったスライドを使って、隣に座っている相手と自己紹介をする。

● Excel 講座

Excel 講座の目的は、Excel の機能を知り、実際に利用することで、受講生の Excel に対する苦手意識を払拭することである。本講座では未完成の家計簿や時間割表などの Excel データを完成させる中で、Excel の操作を習得していく。講座で扱った機能・関数を復習できる練習問題も用意しており、講座の最後に受講生がこれを解く時間及び解説の時間を設けている。

● Word 講座

Word 講座の目的は、Word を使ってレポートを自分で作れるようになることである。本講座では未完成レポートの Word データを完成させる中で、Word の操作とレポートのマナーも学んでいく。Excel 講座と同様、講座の最後に練習問題を用意している。

5.3 アドバンス講座

アドバンス講座は、基礎講座を受講した新入生が対象である。活用講座よりも発展的な内容や実践的な内容を扱う。アドバンス講座は、プレゼンスキルアップ講座(全学部対象)と理系レポート講座(理系学部対象)の2種類がある。各講座の時間は3時間である。プレゼンスキルアップ講座7日程、理系レポート講座6日程の中から新入生は都合の良い日程を選んで受講する。

● プレゼンスキルアップ講座

プレゼンスキルアップ講座の目的は、受講生がプレゼンテーションに必要なスキルを学び、プレゼンテーションを作成するところから発表するところまでを経験することである。プレゼンテーションに必要なスキルとは、プレゼンテーションの構成、スライドのデザイン、立ち振る舞いなどである。名古屋大学では1年生の必須科目に基礎セミナーという講義がある。この講義は学生一人一人が特定のテーマについて自ら調査し、自分の考えをまとめて、プレゼンテーションという形式で発表するものが多い。よって、新入生にとってはプレゼンテーションのスキルを入学前に身につけ

ておく必要があり、本講座の需要が生まれている要因の一つである。

受講生には事前課題を課している。時事問題や科学技術などに関する複数のテーマを用意し、それらのテーマについて簡単にまとめた資料を活用講座時に配布する。同時にプレゼンの基本構成や見本のスライドを載せた資料も配布する。受講生は興味のあるテーマを1つ選び、配布した資料を参考にしながら、自分の意見・主張を加えたスライドを講座受講日までに PowerPoint で作成する。文系学部の学生も理系学部の学生も講座の対象であるため、幅広いテーマを用意している。2015年度の講座では「大学の秋入学」「センター試験の改革」「遺伝子組み換え作物」「炭素税の導入」「親によるスマートフォンの利用制限」という5つのテーマを用意した。

本講座は他の講座と違い3~5人の受講生で1つのグループを作り、各教室4グループで講座を進める。各グループには、講師及びTAが各グループの進行スタッフとして加わる。プレゼンスキルアップ講座の流れを図2に示した。



図2 プレゼンスキルアップ講座の流れ

講座の最初には、アイスブレイクの時間を設けている。アイスブレイクが終了したら、受講生は作成してきたスライドを用いて1回目の発表をグループ内で行う。発表者はパソコンの画面をグループのメンバーに見せて発表する。スタッフにはフィードバックシートが用意されており、発表に対する評価を行う。1回目の発表が終了したら、講師がプレゼンテーションに必要なスキルについて解説する。その後、各グループのスタッフがフィードバックシートを使ってグループ内でフィードバックを行う。フィードバックシートは、講師が説明した項目をもとに作成されているので、受講生にとってはプレゼンテーションの気を付けるべきポイントのリストとなる。フィードバック終了後は、受講生が与えられたフィードバックをもとにスライド・原稿の修正を行う。最後に2回目の発表を行う。最後の発表は教室のスクリーンを使用して行う。発表後は発表者に対してフィードバックを行う。

● 理系レポート講座

理系レポート講座の目的は、受講生が実験レポート特有のルールを習得し、ExcelとWordを利用して実験レポートを作成できるようになることである。名古屋大学の理系学生は、学生実験や研究活動でレポートや論文を書く機会が多くある。桁数やグラフの軸表記といった理系特有のルールについては、大学の講義でほとんど扱われていない。しかし、実験は主にレポート

で評価されるので、実験レポートのルールを知っておく必要がある。このことが本講座の需要が生まれる理由である。講座では、あらかじめ配布される Excel と Word の講座用データを用い、実験レポート作成に必要なスキルを扱う。講座の前半は、講師は主に実験レポートのルールの説明を行う。その後、受講生は操作追従形式で実験レポートのルールに従った操作を学ぶ。講座の最後には、受講生が未完成の実験レポートのデータを自力で完成させる演習の時間を設けている。

6. 成果

パソコン基礎講座の申込者は 911 人で、パソコン購入者の 8 割以上であった。なお、プレゼンスキルアップ講座の申込者は 384 人、理系レポート講座の申込者は 431 人であった。

各講座終了後には、受講生に対してアンケートを実施した。アンケートの項目には、講座の難易度、進行スピード、TA のサポート、講座の理解度などがある。それぞれの項目について 5 段階で評価してもらい、各講座の総合評価もつけてもらっている。セットアップ講座と活用講座は例年並みの評価を得られた。受講生からのコメントの中には、もっと基礎的なスキルを扱って欲しいという意見や講座の難易度を上げて欲しいという意見が見られた。受講生の PC スキルの差に我々の PC 講座が十分に対応できていないことが分かった。

図 3 にプレゼンスキルアップ講座と理系レポート講座の過去 3 年間に渡る総合満足度の推移を示した。プレゼンスキルアップ講座は昨年度を上回る評価が得られ、理系レポート講座は昨年度を下回る評価となっていることが分かる。アンケートの他の項目を見てみると、TA サポートへの評価と総合満足度に相関関係があることが推測できる。その関係も図 3 に示した。

まず、理系レポート講座について振り返る。2014 年度は講座内容を充実させたことにより、2013 年度から総合満足度はやや上昇した。2015 年度は 2014 年度とほぼ同じ講座内容であったが、2014 年度から総合満足度は低下した。ここで、2015 年度の TA のサポート状況を振り返る。2014 年度までは 1 教室あたりの受講生定員は 30 人であったが、2015 年度は 45 人に定員が増やした。しかし、TA の増員は行わなかった。また、TA への十分な講習が今年度は行うことができなかった。そのため、TA 1 人が対応する受講生の人数が増えたことと TA の能力低下により、受講生が満足するサポートができなかったと考えられる。

次に、プレゼンスキルアップ講座を振り返る。2014 年度はフィードバックシートの改善と TA への事前講習を行った。総合満足度は上昇したが、TA サポートへの評価は低下した。2014 年度に実施された講習会は、プレゼンテーションの基本のみを学ぶものであり、実践を伴った講習でなかった。そのため、受講生が満足するサポートを TA ができていなかった。2015 年度では実際の講座に近い形で TA への講習会(7.2 参照)を実施したことにより、TA サポートへの満足度と総合満足度が上昇した。

よって、TA サポートの充実度も講座の満足度に影響していると考えられる。

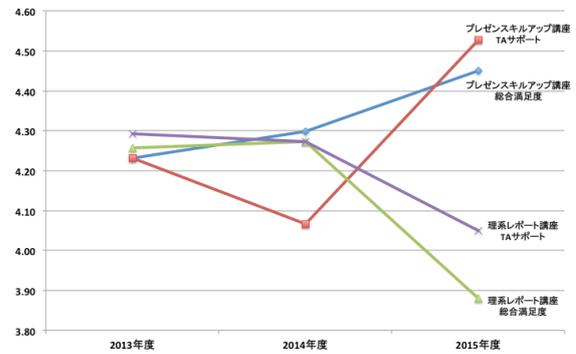


図 3 TA サポートと講座総合満足度の相関関係

7. プレゼンスキルアップ講座の改革

7.1 改革の経緯

改革のきっかけとなったのは、2014 年度プレゼンスキルアップ講座の振り返りで挙げられた 2 つの問題点である。1 つ目の問題点は、受講生へのフィードバックが各スタッフの個人的な感覚に左右されており、明確な基準などが設けられていなかったことであった。2 つ目の問題点は、スタッフが受講生のスライドのみを見て、プレゼンテーションの修正すべき点を受講生に示していたことであった。プレゼンテーションのスキルには、スライドの見栄えだけでなく、プレゼンテーションの構成や話し方も含まれるはずである。なので、スライドだけを見て受講生のプレゼンテーションを判断するのは誤りであった。

7.2 改革の内容

これらの問題点を解決するために 3 つの改善策を実施した。プレゼンテーションの基本構成に基づいた資料の事前配布とフィードバック、TA への講習、講座内容の変更の 3 つである。

プレゼンテーションの基本構成に基づいた資料の事前配布により、受講生が基本構成に沿ったプレゼンを事前課題作成時に作れるようにした。講座内での講師の解説とスタッフによる各受講生へのフィードバックについては、受講生に配布したプレゼンテーションのポイントに統一して行われた。

TA への事前講習という方法からも、TA の受講生へのフィードバックの基準を統一した。講習の目的は、TA のスタッフがプレゼンテーションの基本構成を理解し、受講生に対して的確かつ成長を促すようなフィードバックができるようになることである。講習は、講師が TA のスタッフに対してプレゼンテーションのポイントとフィードバックの際のポイントを解説することから始まった。その後、実際の講座のようにグループに分かれ、受講生役と TA 役を置いた。受講生役のスタッフは事前に作成してきたスライドで発表してもらい、TA 役のスタッフが発表後にフィードバックをすることで、TA としての練習機会を設けることができた。

講座内容の変更により、講座開始直後にも発表を設けた。修正時間の前に発表を見ることで、修正すべき点を TA が判断できるので、スライドだけを見て修正点を指摘していた問題を改善した。

7.3 改革の結果

プレゼンスキルアップ講座の 2014 年度と 2015 年度のアンケート結果を図 4 に示す。

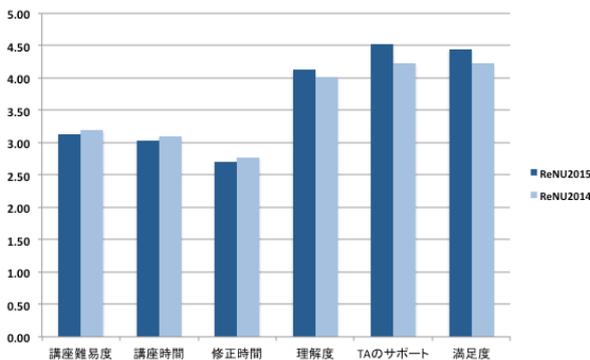


図4 アドバンス講座Aのアンケート結果

講座内容を大きく変更したため、アンケート結果にも変化が見られた。まず、修正時間が短かったという回答が目立った。2014年度と比較して発表の時間を増やしたため、受講生によっては修正時間を十分に確保できなかった。

一方、受講生の満足度は上昇した。理解度、TAのサポートの2項目も上昇した。TAへの研修を行ったことがこのような結果につながったと考えられる。

受講生が事前課題で作成してくるプレゼンテーションにも変化が見られた。2014年度までは、配布された資料をまとめてくるだけで自分の意見・主張が盛り込まれていないプレゼンテーションが多く見られた。しかし、2015年度では、事前配布資料の中にプレゼンテーションの基本構成を示したことにより、自分の意見・主張が盛り込まれた基本構成に沿ったプレゼンテーションが多く見られた。受講生からのアンケートの中には、TAから与えられた発表時の立ち振る舞いやプレゼンテーションの構成についてのアドバイスに感謝しているコメントが多く見られた。新入生にプレゼンテーションのポイントを十分に伝えることができたと考えている。

8. 講座運営で浮かび上がってきた問題点

現在、ReNUのPC講座が抱えている問題は2つある。新入生の情報リテラシー格差とTAの教育方針だ。

新入生の情報リテラシー格差により、PC講座の難易度や基本的事項の説明にどれだけの時間を割くかということが問題になっている。クリックはマウスの左側のボタンを押すなどの基本的なパソコン操作が分からない受講生が一定数存在することは事実である。ReNUのPC講座の中にパソコンの基本を扱う講座はないので、セットアップ講座の中でこれらを一歩紹介している。しかし、基本的なパソコンの操作を既に知っている受講生にとっては退屈な時間であり、知らない受講生にとっては不十分な内容であった。基本操作を知らない受講生は、基本操作をほとんど知らないまま活用講座を迎えてしまうので、Officeの操作を満足にできずに十分な学習ができていない状況である。

TA教育の問題は、実際の講座に即した状況での講習を実施していなかったことである。2015年度のTAへの教育は、講師のスタッフがTAのスタッフに操作追従形式で各講座の操作内容を教えることで行っていた。しかし、実際の講座でTAが対応しなければならないのは、操作に付いていけなくなってしまった受講生である。こうした受講生のパソコンの操作画面は正しい状

態ではないので、必要に応じて操作の修正などを行わなければならない。また、パソコンのフリーズなどのトラブルが起きた際にもTAが対応しなければならない。座学のみでTAの育成をおこなってしまったのでは、実際の講座で受講生が満足するようなサポートができないはずである。6章で述べたように、座学のみ講習を行った理系レポート講座とそうでなかったプレゼンスキルアップ講座のTAサポートへの満足度には大きな差が生まれている。その差が講座満足度にも影響しているのだ。

9. 今後の方針

現状の2つの問題点に対して我々が考える2つの対策案を示す。

受講生の情報リテラシー格差に対しては、セットアップ講座と活用講座の間に、希望者制・少人数制の初心者向け講座を新設することで対応する。現在のセットアップ講座ではパソコンの基本的な使用方法をすべて解説しきれていないので、活用講座までの間に希望者に対して開講する。扱う予定の内容は、パソコン用語の説明、キーボードの使い方、ウイルスバスターの設定と使い方、メールソフトの設定と使い方、プリンタや音楽機器との接続方法などである。少人数制にすることでTA1人あたりが対応する受講生の人数を抑え、きめ細かなサポートができる。初心者講座を新設することにより、活用講座の受講前にパソコンの基本事項を学べるので、受講生全体の足並みをそろえることができる。そして、PCスキルが低かった受講生にも、活用講座の内容を理解してもらえるような環境を整えられると考えている。

TAの教育に対しては、より講座に近い状況でTAの教育を行うことで対応する。2015年度と同様に各講座の操作を学んだ後に、TAのための講座リハーサルを行うのだ。受講生役は上級生、講師役は講師のスタッフ、TA役はTAのスタッフが行う。TAとしての経験がある上級生を受講生役にすることで、実際の受講生がしやすい間違いやトラブルを再現することができる。そして、TAのスタッフには実際の講座にスタッフとして参加するまでに、TAとして受講生に対応するためのスキルを身につけてもらう。

10. おわりに

ReNUのPC講座が克服しなければならない問題は、受講生のPCスキルが不均一な中でより多く受講生が納得するような講座をいかに提供できるかということとパソコン初心者をサポートするためのTA教育の在り方である。我々は、初心者向けの講座を新設し、パソコン初心者が陥りやすい状況をTAスタッフへの講習時に再現することにより、これらの問題に解決に努めていく。そして、新入生により良いPC講座を提供できるように日々の活動に励んでいく。